



発行
天理教本愛大教会
〒 453-0821
名古屋市千代田区大宮町 1-60
TEL (052) 461-4326
FAX (052) 461-4320
〒 632-0071
奈良県天理市田井庄町 19-1
TEL (0743) 62-0378
編集責任 広 報 部

立教 182 年 活動目標

「恩報じの美行」
■初拝の推進と新ようぼくの丹精
■報恩感謝のおつくしの徹底
■若者にご恩報じの心を伝えよう
◎一名称本年までに三人の修養科生を守護頂う
◎報恩感謝別席参の表施 (6月23日・11月24日)

若者にご恩報じの心を伝えよう

基本指針に沿って若者を丹精していこう

「昨年基本指針には「若者に信仰の喜びを伝えよう」と掲げられた。本年はそこからさらに一歩踏み込んで「若者にご恩報じの心を伝えよう」となった。若者に限らず、信仰の喜びやご恩報じの心を伝えていくことは、私たちようぼくの大切な務めである。

私たちは、親神様の深い恩感によって創られ、神様のご恩によって生かされている。

この神様の恩を知らず、気随気ままに歩んで恩を重ねていけば、最後には「きゆばとみへるみち」に行き着くことになる。そうならないためにも、私たちは報恩感謝の道を歩まなければ

ならない。誠実の心を定めて親神に願うなら、その心の真実を受け取り次第、必ずたすけてくださる。

■行事の活用を

子供や若い人たちに信仰を伝えるためには、まず私たち自身が常日頃から親神様の御守護に感謝し、喜びいっぱいの中で通ることが大切である。私たちが信仰の喜びにご恩報じの心を忘れずに通るからこそ、その姿を若者にも映していき育てば育つ、育てにや育

今年24日には少年会本愛団の「第50回総会」、また28日には「春の学生おぢばがえり」と、若い世代を対象にした行事が行われる。まずは周囲の若者にこうした行事への参加を促していただきたい。そしてそれをきっかけにして、ご恩報じの心を伝えていきたいものである。

第 936 期 修養科生大募集

《面接》☆日時…3月25日 午後1時

☆場所…本愛詰所

3月20日までに神殿事務所へお申し込みください。

3月の「よみ」

- 入社祭・春季霊祭 1日 午前10時
- 祭典終了後、教会長連絡会 よふき会例会 2日 午前10時
- 学生会例会 2日 午前10時
- 青年会例会 12日 午前10時
- 月次祭 13日 午前10時
- 布教実修所 14日 午前9時30分
- むつみ会例会 16日 午前10時
- 婦人会例会 20日 午前10時
- 雅楽勉強会 22日 午前10時
- 女子青年例会 23日 午前10時
- 少年会本愛団第50回総会 24日 午前10時
- こはる会例会 24日 午前10時
- 修養科志願者面接 25日 午後1時
- 本部月次祭 (於 本愛詰所) 26日 午前9時
- 春の学生おぢばがえり 27日・28日

立教182年春季大祭神殿講話 要旨



内統領

宮森与一郎先生

突然ですが、皆さんの子供や孫が運動会の徒競走に出ているところを想像してみてください。ビリになっ

て泣く我が子に、皆さんはどんな態度で接するでしょうか。責めるのではなく、子供を黙って抱きかかえるのが、親というものです。

おさしづに「子が満足して親と言う。どんな事も、成らん所育てるが親の役、親が腹を立て、はどうもならん」(明治31年11月13日)とあります。

おしめを替えるときも喜びながら替えるのが親です。ですが、自分もそうしてもらったことを、ふと思いつく瞬間があります。お

うのです。

しめを替えてくれた自分の親の気持ちが分かるのはそんな瞬間でしょう。

道を信仰する我々も、誰かに教えを伝えたい、たすけさせていただきたい、と努力する中でこそ、「自分もたすけていただいたのだ」という感謝の気持ちを実感できるのです。

伝える努力する中で

恩や感謝の気持ちは、他人に言われて感じられるものではありません。「ご恩報じの実行」という本愛大教会の活動目標も、誰かに教えを伝えたいと努力する中で、ご恩というものが感じられるのではないかと思

うのです。また、子供の成長に合わせる、親も成長していく必要があります。本愛大教会の初代会長様は、自分の子供の身上、出直から入信されました。当時、中川よし

先生は「安藤さん、あなたにはよほど神様が急ぎ込んでいられる」とお話しになりました。この「あなただけ」「あなたは特別」という言葉は、とても大切だと思います。

おふでさきに「みなわがこ」という言葉は9回出てきます。中川先生は、初代会長に親神様の「人間は皆、親神様の可愛い子供である」との思召を伝えられたのだと思うのです。

このことは、ようばくである私たち皆が心得ておかなければならないことでしょう。おたすけの際、「神様はあなたを特別な人と思っておられる」ということを、一人でも多くの人に

伝えることが、私たちようぼくの務めなのです。

心定めできるか否か

明治37年4月10日のおさしづに「小人に身上と言え、堪えられん事情。親には尚堪えられん事情である。(中略) 堪えられん所から、皆皆も理を治めてくれ」とあります。

我が子の身上という節に直面した初代会長は、このままでは安藤家の枝と根は枯れてしまうとのいんねんの自覚によって、中川先生の言葉を素直に実行して通られました。

想像してみてください。我が子に見せられる身上。事情ほどつらいものはありません。その時こそ、心を治めてくれ、と仰せになっている。そのときに、決心をし、心定めができるかどうか分かる目であります。「いんねんがせまつて神様があなたを引き寄せら

れた」との中川先生の言葉には、「あなただからこそ」の心が込められているように思います。

「親子の関係」を忘れず

おたすけの際、相手のことを我が子のようにして導けるかどうか。おさしづに「あちらさんのうさし、こちらさんのうさし、親の役、これ聞き分け。(中略) それく、たんのう、与え。親与えば神が与えるも同じ事」(明治33年6月1日)とあります。

親は子供に満足を与え、たんのうを与える。子供がたすかるための努力が必要です。現代ではお金や物、地位や名誉では人は満足しなくなりしました。世の中は変化していきます。ただ一つ、変わらないことは、子供は親から生まれてきた、というその事実だけです。本愛大教会につながる160力所ほどの教会には、それ

それぞれよく・信者がいます。中川先生はおそらく、我が身を削る思いで本愛の初代会長にたすかってもらいたいと自らがその努力を積み重ねられたのでしよう。

その思いを受けて、初代会長は今度は自らがたすける立場に立つて信者の丹精に心血を注がれました。中川先生の「子供」である初代会長が、今度は「親」となっていくのであります。

先述のおさしづの通り、おそらく、「成らん所」を育てて通られたのでしよう。これが「親」であります。そして、初代会長と同じように、「今度は自分が」と、信者たちが歩んできたからこそ、いま各教会に信者がいるのです。

組織の上では上級教会と部内教会、あるいは会長と信者という関係です。しかし、それだけでなく、「親

子の関係」であるということも忘れてはならないと思います。お道はこの親子の関係をずっと守っていきければこそ、末代続いていくのです。

自分が喜ぶために努力を

親がいつも子供に心を配り、満足を与え、喜びを与え、たんのうを与えていく。

先人たちが必死の思いでたすけた教会であり、ようぼくです。どうか教会長の皆さんにおかれましては、先人たちと同じように、信者さん方の丹精に心血を注いでいただきたいのです。

「親」になるということは、非常に難しいことです。ましてや、自分の「子供」に「親」になつてもらふことは、さらに難しいことです。

人間も、3歳くらいまでは、どこへでも素直について来ようとしています。親にもたれきつた心、「さんさい心」から、成長するに伴っ

て、一人で買物に行くようになり、言わなくても親が望むことをするようになつてくる。これが「誠」です。言われん先からするものが、誠真実です。

今年6月と11月に「報

恩感謝別席団参」を行うとお聞きしました。どうか、この団参に集中していただきたく思います。あの人にたすかってもらいたい、あの人に声をかけてみよう、どうすれば初席を運んでくれるだろう、と考えて

いただきたいのです。その人に喜んでもらおうと考える必要はありません。一人でも連れて帰ることができたなら、一番嬉しいのは自分自身です。自分が喜ぶための努力をすればいいのです。「あなたが来てくれるだけで、私は嬉しい」。

そう伝えるだけで、相手は喜んでくれるのです。「たすけ、一条は天然自然の道、天然自然の道には我が

内我が身の事を言うのやないで。天然自然の道は、長らえて長く通る事が、天然自然と言う。天然自然の道通るには、難儀な道を通るので、先の楽しみと言う。今十分の道通るのは先の纏れと成るのやで」(明治21年8月17日)と聞かせていただきます。

どうかこの事を心において、毎日を通っていたきたいと思えます。

本愛が口火を切つて

ご承知の通り、昨年6月より真柱様はご身上のため療養中であります。おさづけの理は現在お運びいただきけておりません。私たち信仰者は、この事をぜひ信仰的に考えたいと思えます。

もらった物を使つていなければ、あげた方は「なんで使つてくれないの?」と聞きたくなるものです。おさづけの理は、それぞれが願ひ出て頂戴します。先に

信仰の道を歩み始めた私たちが、おさづけの理を楽しんで、喜んで、勇んで使わせていただきましょう。そうした中で、またお運びいただける日が来るものと考えます。

内統領としてお願い致します。どうか本愛大教会につながるよう多くの皆さんには、心を合わせておさづけの取り次ぎに心血を注いでいただきたい。そして別席団参には、初めての人をおぢばに連れて帰つて、これだけの人がおさづけを待っている、という姿を見せていただきたいのであります。

本愛大教会が全教の口火を切つて、「あれでこそ真のようぼく」であると、世界に映していただけるような働きをしていただきたい。そうお願いをして、講話とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひ致します。(文責・広報部)

随想随理

探る理のえん言わん



八つのほこり
で、二番目に戒
められているの
がほしいという
心使いです。
別席のお話で
ほしいとは、心
も尽くさず身も
働かずして金銭
を欲しがり、分
を忘れて良きも
のを着たがり、

いとつい思いがちなのが人
間であります。あるいは自
分だけ楽をして、もらうも
のは人一倍、などというよ
うな心も使いかねません。
しかし教祖は、それはほこ
りだとはつきりおつしやっ
ています。

今日のように物に恵まれ
た時代にあつては、まだま
だ使える道具でも粗大ゴミ
のところに捨ててある光景
をよく見かけます。また小
学校でも、子供たちが落し
物を引き取りに來ないとい
う話を聞きます。使い捨て
どころか、使える物さえも
捨てて顧みないという風潮
そのツケは、すでにゴミ問
題をはじめとする環境問題
という形で私たちに突き付
けられています。

良きものを食べたがり、ま
た何によらず、あるが上
にも欲しがる心はほこり。何
事もたんのうの心を治める
のが肝心である、と教えら
れています。

それゆえに大量生産、大
量消費という生活のスタイ
ルを見直そうという声が世
間でも高まってきましたが、
いくらスタイルを変えても、
一人一人の心の向きが変わ
らなければ状況は改善され
ません。そこで心のほこり
を払うという教祖の教えが
重要になってくるのであり
ます。

◎自らの反省と改善を

む、という心がけを実行さ
れたといえます。「自分の
お金だから何にいくら使お
うと自由」という考えでは
なくて、どんな場面におい
ても常に二分、三分は慎む
という気持ちの方が広がれば、
自ずと世間の様々な問題も
解決へ向かつていくのでは
ないでしょうか。

とところで教祖は、成つて
きた事柄を前向きに受け止
める心の持ち方をたんのう
とお教えくださいました。

止める心がたんのうです。
そして「たんのうは前生い
んねんのさんげ」と教えら
れるように、その努力に
よつて芳しくない運命が少
しずつ良き方向へと切り換
わつていくのであります。

たとえ辛く苦しい状況を
見せられたとしても、それ
は決して苦しめよう困らせ
ようとの思召からではあり
ません。このままでは運命
が落ち込んでいくから、早
く自身の姿に気づいて、い
んねんを自覚してほしいと
いう親心を親神様はかけて
くださっているのです。

またほしいのほこりは物
や金銭、地位や権力だけが
対象ではありません。自分
が関わる人や社会に対して
「ああして欲しい、こうし
て欲しい」と過剰に求める
心使ひもほしいのほこりに
なります。他に原因を求め
ず、自らの反省と心の改善
によつてたんのうの心を治
め、必要な物や人が与わつ
てくるよう努める姿勢が肝
心であります。

(第51回)

求める心を慎み、与えを喜ぶたんのうの境地へ

この親心を悟り、成つて
くる姿を喜びをもって受け

心であります。

少年会

ニコリンピックに少年会員140人
笑顔と熱気に寒さ吹き飛ばす



新競技の「ムカデ競争」。リズムを合わせて行進するが、なかなか揃わない

少年会本愛団では、2月17日に「本愛子ども会ニコリンピック」を開催。大教会にほど近い日吉小学校体育館を会場に、室内オリピックを行なった。

午前9時、受付を済ませた子供たちが続々と神殿に集合。参加する140人の子供たちが4班に分かれて整列し、全員でおつとめを勤めた後、体育館へ移動した。体育館では、まず班ごとに出場競技を決め、入場行進。そして育成会長である大教会長が挨拶をした。



綱引きをする子供たち。お互いに負けじと全力でロープを引っ張り合う

いよいよ競技開始。午前中はキャタピラリレーや玉入れなど4競技を行った。午前の競技終了後は、一旦大教会へ戻り昼食タイム。神殿2階でそれぞれが持参したお弁当を美味しく口に頬張っていた。午後からは綱引きやムカデ競争など4競技を行い、全ての種目が終了。会場は子供たちの笑顔と歓声が絶えなかった。その後、大教会神殿で表彰式が行われた。1位から3位の班が表彰され、また

参加者全員にお菓子が配られた。参加した子供たちの笑顔はじける一日となった。

婦人会 委員長講習会を開催
110周年目指し思い語る

婦人会本愛支部では、2月20日、本部長・宇野義明先生を招き、「委員長講習会」を大教会に於いて開催した。

午前10時に全員でおつとめを勤め華洲館3階へ移動。講師の宇野先生が登壇し「先祖の御教えを心に治めるには、起きてきた事柄から一歩引いて、思案するゆとりを持つことが大切」と信仰をする上での心の持ち方を話された。昼食を挟み、午後からは11班に分かれてグループトークを行った。参加した婦人会員は、創立110周年へ向けてお互いの意見を交換し合った。

こはる会

2月3日、こはる会の委員長、副委員長並びに委員が新たに任命され、婦人会・安藤くみ子支部長より辞令が交付された。現在の委員は次の通り。

- 委員長 長尾 千紘(本西部)
- 副委員長 安藤こと恵(本則武)
- 委員 大橋 二三(本愛中)
- 委員 安藤まり恵(本則武)

少年会ほんあい団 第50回総会

3月24日(日)

おつとめ・まなび、総会式典
成人門出式、アトラクションなど

ハーftime

今年1月14日、娘が成人式を迎えた。娘の成人式が昨年だったからこの晴れ姿を見ることは叶わなかったかもしれない。昨年は私自身死ぬか生きるかの瀬戸際だったし、世間では着物業者「はれのひ」の騒動で成人式を取りやめにした所も多々あったからだ▼戦後、戦地から戻り虚脱状態になった若者たちに希望を持たせようと、昭和21年11月22日に埼玉県蕨市が第一回成人式を行った。これが高く評価されて昭和23年から1月15日が成人の日として祝日になった▼大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする新成人を励ます事を趣旨としているが、昨年の国会で成年の年齢をこれまでの20歳から18歳へと引き下げる民法改正がなされた。今後の成人式はどうなるのだろうか。

教 人 登 録 者

本美郷 1 ー 以上6名

(平成30年12月22日付)
本則武 安藤まり恵
以上1名

第89回教人資格講習会

終了者

(平成31年2月10日付)
本海部(本南陽) 清水 龍平
以上1名

1月の中席者数
(2月20日提出分まで)
本道橋 4 ー 本愛岐 1

1月の初席者

本心(本心里) 村上 結香
以上1名

塚原道子さん(本千原分教会五代会長夫人)
2月20日に出直された。
享年83歳。告別式は2月22日午前11時より、世話人・杉村善男役員を齋主とし

事情おはこび
(平成31年2月26日付)



松原健治氏

本横山分教会(本耕部属)

(松原氏の略歴)

◎任命願
前会長・松原友治氏の
辞職に伴い、松原健治氏
が会長の理のお許しを戴
いた。

◎移転願

名古屋市中村区鴨付町
2丁目33番地

昭和53年10月21日生まれ
平成8年10月27日おさづ
けの理拝戴
平成15年9月24日教人登
録
〔鎮座祭〕平成31年3月16日
〔奉生祭〕平成31年3月17日

て、しめやかに執り行われ
た。

お詫びと訂正

2月号6頁の立教181年教務統計
で「本美咲 初席者2」となつて
おりましたが、「本美郷 初席者
2」の誤りでした。ここにお詫び
して訂正いたします。

教務部

【春の学生おぢばがえり】参加要項

- 期 日：3月27・28日(詰所泊)
大教会集合 27日午前9時
大教会解散 28日午後6時30分頃
- 対 象：高校生(新1年生を含む)・大学生・短大生・専門学校生
- 参加御供：5,000円(神殿事務所まで)
- 申込締切：3月20日 ※詳しくは本愛学生担当委員会まで

大 教 会 日 誌

平成31年1月25日～平成31年2月22日

1月

- 26日 本部春季大祭
春季大祭総合団参(近鉄臨時列車)
- 28日 婦人会創立記念の日
- 31日 常任役員会議◇役員会議

2月

- 1日 入社祭
祭主・大教会長 扨者・都築隆道、吉田克義
指図方・佐藤幸夫 賛者・長尾 誠、中島裕信
◇おたすけ講話—山神茂彦
◇教会長連絡会
- 2日 よふき会例会
- 3日 こはる会例会
- 9日 女子青年例会
- 12日 常任役員会議

- 13日 月次祭
祭主・大教会長 扨者・安藤正二郎、吉田正信
指図方・出口道男 賛者・津田豊郎、安井 篤
◇祭典講話—杉村善男
◇大教会長挨拶
- 14日 布教実修所
- 16日 むつみ会例会
- 17日 本愛子ども会ニコリンピック
参加者数 少年会員140人含む239人
子ども食堂「MOGU」参加者数52人
- 20日 婦人会 委員長講習会
おつとめ、講話、グループトーク
講師—本部員・宇野義明先生
- 22日 おはなし会
雅楽勉強会